

平成24年度 第3回まちづくり合同会議

(開会6:00時)

○事務局

これからまちづくり合同会議第3回目を開催したいと思います。

開催に先立ちまして、事務局の方から挨拶をさせていただきます。総務課長からよろしく申し上げます。

○総務課長

どうもおばんでございます。本来であれば、前回のように町長が出席して、皆さんにご挨拶とお礼を申し述べるところなのですが、所用で来られませんので、私にご挨拶をさせていただきます。

まちづくり推進会議委員の皆様におかれましては、お忙しいところ大変ありがとうございます。若い皆さんが経験による的確なご指導を願っているということで、担当者から聞いております。今日もよろしく願いいたします。

本日を含めて、会議はあと2回を予定しております。若者定住、少子化対策に関する問題解決について、23年から市民フォーラムを開催して、ご提言いただいております。その中から5つの柱ということで、多様な雇用等、子どもや若者の居場所づくり、学びと実業の連動、住環境の整備、地域の資源を活かす等の問題についてご協力をいただきながら、各柱をテーマ別に設定しながら、緊急度・重要度でご提言をいただいております。

本日の内容については、後ほど主任から詳細にわたるご説明と、今日の進行等についてご説明させていただきます。

本日の状況、あと2回の状況について、事務局でまとめていながら最終的には将来的にどうあるべきかということで、今まで積み重ねた内容を今後十分に、行政的に施策的に反映できるような状態にもっていきたいということで、今日皆様に再度集まっております。

会議の時間も限られておりますが、なんとか皆さんによろしく願いをして、ご挨拶といたします。すみませんが、よろしく願いいたします。

○事務局

ありがとうございます。進行の詳細については、ぎょうせいの廣地先生からさせていただきますので、前回、前々回と合わせて、ほぼ皆さん出ているので、流れは分かっていると思いますが、9月4日に若い人たちで会議をさせていただきました、その部分の検討材料ということで、A3のページの方で、各1、2グループ、3、4グループという格好で本日は窮屈な格好にはなっていますが、意見を出した部分について再度検討していただき、そこにまちづくり推進会議の皆さんの方で、こういうふうな格

好にしたほうがいいんじゃないのというアドバイスを組み入れてもらって、最終的には発表という格好になっていますので、その流れで進めていただければと思います。

詳しい今日の進め方については、ぎょうせいの廣地さんの方から、させていただきます。それではよろしく願いします。

○ぎょうせい

こんばんは、よろしく願いいたします。

前回 7 月 30 日に第 2 回の合同会議をさせていただきました。資料からご説明申し上げますと、その時皆さん方でアドバイスをいただいたものを事務局の方で取りまとめたものを、今日皆さんのお手元に配布をされていると思います。

これにつきましては、第 1 回目いただいた部分、それから、今日アドバイスをいただいて、それらを整理いたしまして、このプロジェクトの取りまとめに入りたいというふうに考えております。今日は、実は先ほどお話いたしましたように、第 3 回目のフォーラムを開催されたわけですが、その時に若いフォーラムの参加者の方が整理してくれたもの、それをお手元に第 3 回まちづくり合同会議の資料としてお配りしております。

それにもとづいて、各グループ、前回もそうなんです、2 グループに集合をさせていただいておりますので、その 2 グループのものについてご議論、アドバイスをいただきたいという

ふうに思っておりますが、今日は住環境の整備ということで、住環境の整備についてが 5 項目、それから医療環境の整備ということで 2 項目、地域資源を活かした機能分担、この機能分担というのが実は、地区の機能分担ということを考えております。これが、とりあえずこの場では福島地区の機能分担ということで、検討していただいたということでございます。

特に今日、まちづくり推進委員会の皆様から、アドバイスをいただきたいことについては、またグループのリーダーから説明をお願いしたいと思うんですが、私の方で気がついたことについては、この各資料の下の所に備考という形で、こういうことが検討できないでしょうかという形で、書かせていただいておりますので、できれば、こういうところも見ながら、委員の皆さんのアドバイスをいただければありがたいと。

特に、これは私も 1 年半この町に入らせていただいているわけですが、毎回来るたびに思うんですけれども、やはりこの町がこれからより活力をもって、若い人達がこのまちづくりにお手伝いしていただいているわけですから、その時に何かきちんとした目玉というかポイントがほしいかなと、こう思っております。

それで見えていったときに、やはりこの資料の 5 ページ目なんですけれども、本来はこの町への、函館から来ると入口である、千軒の方からずっと整備をすればいいんですが、そこまでま

だいきませんので、私としてはこの福島地区、それからこの辺り、今の役場の中心ですね、この辺をひとつの中心にして、それからもう一つは、この先の吉岡地区という2つ、とりあえず目玉として何か考えられないかと。ちょうど、私が何度か視察をさせていただくと、それぞれに個性があるものがここでは大きく目立つものがあります。私としては、一つは今ここにあるように福島地区の商業・公共・広域ゾーンとしての市街地、面的整備ということですね。

例えばここで大きな問題では、就労の場はどうしていくのか、あるいはどうやって活動をしていくのか、あるいはここにある公共施設を、どうさらに有効活用するのか、というテーマがあるんじゃないかと。

もう一つは、この福島地区というところにいってみますと、ここはここで、温泉だったり、学校は廃校になったところが耐震構造上使えないということでもありますけれども、あの辺一帯の住環境をみて考えると、これからこの町に大きな役割をはたしていただく、女性とか、子供たち、さらにはここで長年この町を支えてこられた高齢者の方たち、こういう方たちが、このまちづくりに参加していただく、という意味からいくと、一つは元気な福島町、人づくり環境、ようするに向こうでは、子供たちから含めて人材を活かす。というまちづくりをしていく、こちらのほうは、商業、産業、あるいは公共サービスのまちづくりをしていく、こん

なことが、もし検討していただけるとすればありがたいなど。これは、外から来たコンサルが勝手に言っていることだというふうにお考えになる方がいらっしゃれば、私の方であまり申し上げるつもりはありません。

それは、私が見ていると、そういう2つポイントがある、それが動き出すと、他の地域ももちろん現在の岩部の観光の在り方とか住環境の在り方、あるいは千軒の方で活動をしている方たち、こういう人達の連携もより一層強まるかなと、こう考えております。

そんなことで、できればもう少しアドバイスをいただけたらというふうに思っております。今日の全体の進め方としましては、今申し上げた、全部で9項目ありますけれども、だいたい今から7時30分くらいまで、できれば全項目アドバイスをいただければと。それを取りまとめまして、残りの30分、一応8時終了をとりあえずの予定としておりますので、各グループから7時30分から8時にかけて発表いただいて、それぞれまたここについても、委員の皆さんのアドバイスをいただく。こう考えています。そのあとまた、事務局の方からお話があるかは思いますが、今日終わったあとどうするんだと、今度のスケジュールもこのあと事務局のほうから報告をいただきたいと思います。

以上でございます。よろしいでしょうか、何かもし質問とか分からないところがあれば、グループリーダーの方、まず進め方はグループリ

ーダーに任せます。5ページ目まで行っていただくという前提で、委員の皆さんに前回の報告かねがねアドバイスをいただくと。それから、途中でどなたか書記の方は発表できるように。ということで、お願いします。それでは、初めてください。

(各グループ意見交換)

○1グループ

まず、若者定住住宅の整備なんですけれども、1、2グループは6点項目が上がってはいたんですけれども、まず、新築とか整備をする場合、かなり費用がかかるのではないかと、あと簡単に空き家をリフォームするという話もここに上がってはいるんですけれども、実際空き家は物置変わりと言ったら変ですけれども、家財がおいである家が多いと。

あと、以前役場の方で空き家対策の検討会をやったことがあると。そのときに、リフォームするという話では今実際町外からのニーズは、まずトイレが水洗でなければならないと。基本的に今、町にある家の古い住宅については、汲み取り式が多いので、それをまず改修するにも4～50万くらいの費用がかかるのではないかと。

あと、家に物があるので、その処理費用ですね。廃棄費用についてもだいたい10万とかそれ以上かかる場合があるのではないかとというふうな意見をいただきました。

実際やる場合には、何から取り組ん

だ方がいいかという意見もあったんですけれども、もしそういうふうな今人が住んでいる新栄町の地区とか、丸山地区に最適な空き家がある場合ですね。そういう空き家がある場合には、実験的な試験ハウスみたいな形ですね、空き家を町の費用を使って水洗化にして、家にあるものを持ち主に対して了承をとった上で廃棄して若者向けの新しい住宅にして、その結果をみてこれから整備をしたほうがいいのではないかとというような意見が出ていました。1グループは以上です。

○ぎょうせい

はい、では2グループお願いします。

○2グループ

3、4グループの方になります。出された意見について、とりあえず根本の話の部分で、若者定住住宅の整備というところの話で、供給がそれほど求められているかというところの意見が出て、空き家を利用するなどその住居を建設してもらおうという意見があったんですけれども、本当に必要なんですか？というアドバイスがありました。そこの部分でも、状況を整理をしないと駄目だとは思いますが、もしその情報を整理をして、本当に必要であるということになれば、町で町営住宅を建てれば一番分かりやすい話ですよ。という部分と、空き家といったところでも、空き家だけれども使えないセカンドハウスみたいな部分の中にはあるので、そういう部分ではなくて、ある程度町の方でそこは整備をしてあげたほうが良いと

いう格好での整理になりました。

あと、ひとつ話題とはそれるかもしれないんですけども、民間の建設の部分で、若干かかってくるかもしれないんですけども、うちの方の住む住居は、家賃が他町と比べれば若干高いという部分もあります。それも含んでなんですけれども、本当に人を呼び込みたいという格好になるのであれば、いろいろ方法はあると思うんですけども、定住なり移住してくる人の部分についての、助成という方法になるのか、それは色々あるんですけども、そういう方法で近隣町から比べれば、うちの方は住みやすいという方の住居作りを進めていくのも一つの手法だという格好で、まとめさせてもらいました。以上です。

○ぎょうせい

はい、ありがとうございました。それでは、3グループお願いします。

○3グループ

私達のグループは前回の1、2グループの方で、半分に分かれたほうなんですけれども、私達の方で話をしたのが、まず空き家の関係ですね。他の場所でも出ているんですけども、空き家をまず使うという格好、結構難しいところがあるんじゃないかというところがあるので、まず試験的に、簡単に言うとちょっと暮らしのような感じで、例で上がっていたのがプレハブみたいなのかトレーラーハウスとか、本当に簡単な作りのそういうものを作るとか。

あと、1つ面白いものが出ていたの

が、町で平屋とか比較的経費のかからないような家を1件から3件くらい造って、試しでまずは賃貸という形で出しまして、その方に福島町を気に入ってもらって、ここに定住するよということになったら、期間を何年とかいうところまでは話をすることができなかったんですが、そうなった場合に、その方にその家を購入してもらおうというような格好で、最初はお試し期間で、最終的にはその人のものにしてもらうというような、家をまず試験的に何棟か建てて、それがいけるようだったら、その部分をもっと増やしていけば、リスクの面でもいいのではないかなという話も出ていました。

そういうものも含めて、町内の建設業者さんにも働きかけて、そういうものを今やろうとしているんだけどもという格好で、造るのは町内の業者さんでやってもらうというようにすればいいんじゃないかと。

その部分と空き家のリフォームの件も合わせて、あとは実際こっちのほうに移住してくる方で、空き家を自分で買ってリフォームしてというのは、とても難しいと思いますので、そのリフォームの関係を町内の業者さんにやってもらうというようなことができれば、もう少し空き家を使うという部分もスムーズにいくんじゃないかという話が出ていました。

私達の方はそんな感じですよ。いろいろ話をしたんですけども、民間のアパートを建てられるようにという話もあったんですけども、その部分

も民間であれば採算の関係もあると思うので、そう簡単に民間の方がポンポン建てられるということもないと思うので、まず流的には町の方が主導になってその流れを作って、民間の人が乗っかってくるような格好になるのかなという話をしていました。以上です。

○ぎょうせい

はい、それじゃあ、4グループお願いします。

○4グループ

4グループでは、空き家ということよりもそもそも、民間のアパートを新規で建設することがあるのかということが問題にあがって、新規で建てても、そもそも建てる人がいないというか、今あるアパートにも人があまり入らないような状況らしくて、そこにさらにお金をかけて新規で建てるというのはすごい難しいのではないかということでした。その中で、建てても入る人がいないということは雇用というところが大切なのではという話になって、そこから高齢者の孤独死を防ぐ住宅という話になりました。それは、高齢者の方々を場所を固めてそこに住まわせて、そこに若い人を訪問させたりだとかというような形にすることで、若い人の雇用につながると。これは、高齢者の住宅なんですけれども、先に述べた若者定住の住宅というようにところでも一つ大きな役割を担っているのではないかなという話になりました。以上です。

○ぎょうせい

はい、ありがとうございました。4つのグループに相互になにか意見か質問があれば。

ちょっと今聞いていて、残念だねというのは申し訳ないんですが、あったんです。

というのは、何が言いたいかというと、当然ここに若い人達の職場を作ろう、

雇用の場を作ろう、作るためには何が必要ですか、その時に去年のフォーラムの中では、ここに若い人達が住みたいと思える住宅がないというところから始まっているんですよ。

そうすると、その住宅がないから職場を作れないの？というところから始まって来たはずです。ここから出て行ってしまう人達も、自分たちの住む住宅としては、満足なものがない。ただ、私が常に思っているのは、人口が減って行って、空き家があるから空き家を直してそこに住もうというのは、短絡すぎるよね。まして、ここにも質問だけ書きましたけれども、民間アパートを作るといようなことが現実的ですか？と、こういうふうに聞いているんですよ。でも、これも今ない。そうなってくると、ここでもともと考えようとした、若者定住対策のための住宅整備、これはなんだったのというところに戻ってほしい、本来はね。現実的じゃないよね。

例えばリフォームして使えるような空き家だったら、誰も何も言わなくてもなっていたわけですね。だから、僕はリフォームじゃなくてリノベ

ションでしょというのそういうことですよ。単にリフォームをしたからって住めるわけではない。ということで、せっかくここにまちづくり委員の人達が来ているんだから、若い人は自分たちの町はこういうところだから、こういうものをつくりたい、最後に出てきたけれども、例えば高齢者をどこか1か所に集めようと、要するに高齢者住宅、今国が進めている高専賃というやつですね。部屋付き住宅を造っていく。それで高齢者はここに入ってもらって、介護と福祉を一緒にそこでやりながら効率化も図って、さらに若い人達が福祉分野の就労の場として参加してもらおう。これはすごく面白い話。だとすれば、それにしてもやっぱり住宅を造ることになるわけです。じゃあその住宅がいいのか、若い人達の別の職場がいいのかということもやっぱりこれから基本的には議論をしていかなければいけない問題だろうと、ここでは僕はそういうふうに思います。

あと、もう一つ分かりきったことから、発表してくれなかったんですが、どこかのグループにきちんと言っていたきたかったのは、あくまでも空き家を使ってやる、もし空き家を使えないにしても空き家対策はどこかでやらなければいけない。この場合に情報をどうやって管理するのか、一般の市民がもっているものを行政として、そのものの情報を整理しないといけませんよね。使える空き家なのか、使えない空き家なのか、使う見込みのあ

る空き家なのか、もう誰がどうなっているか分からない空き家なのか、そういうところから入らないといけないので、そこを最後にこの1、2グループのところで空き家情報の充実と書いてある、これは提供なんだけれども、提供するための一時的な情報をどう集めるか、というようなこともできればちょっと触ってもらったらありがたいなとこういうふうに思います。

次にコミュニティバス等の検討のところにいきます。

ではまた1グループからお願いいたします。

○1グループ

デマンドバスの利用実験が開催されたということで、このことについて、どういうふうな状況か実際知らない方もいたものですから、実験の内容の確認から入りまして、デマンドバスの結果はまだ分からないんですけども、実際どのような結果になってくるのか、その推移をきちんと見極めて、デマンドバスの結果に基づいてさらにもし実験ができるのであれば、別なニーズに応じた形でもう一回再実験をしてから、詳しい検討に入ったほうがいいのではないかという話がありました。

2点目の公共バスに関する情報の提供ということだったんですけども、車を使っている人間、普段バスになかなか乗らない人間ですね、これは確かに見落としがちな観点ではあるので簡単に、早急にできる部分でもあるので、これはきちっとやったほうが

いいというような意見が出ておりました。

あと、混乗ですね、スクールバスとか温泉バスの混乗ができるのはどうなのかというような話も出たんですけども、まず温泉バスについては今中型規模の20人乗りのバスを役場の方でやっているんですけども、それをだいたい毎週水曜日、金曜日、週2回で提供しているんですけども、だいたい平均15~18人くらい毎回各便乗っておりますので、便によってはばらつきはあるんですけども、基本的にはほぼ座席が埋まっているような状況があるということで、かといってこれを大型化するとなかなか町内の細かい場所までは入っていけないと、そういう状況であるので、温泉バスについての混乗はなかなか難しいんじゃないか、という話もありました。第1グループは以上です。

○2グループ

ここの項目については、そんなに深くは話しませんでした。というのは、必要性の部分は、今運行しているところから判断しましょうという話になっていますので、備考にも書いているところはあるんですけども、状況次第じゃないと話をするにも、という格好になっていましたので、ここの時間は省略させていただいています。すみません、以上です。

○ぎょうせい

それでは、すみません。3グループをお願いします。

○3グループ

私達の方も、ここの部分はやっぱりどうしても試験運行をやっているので、その動向を見守るといって部分が強かったんで、これといった議論というのは出てこなかったんですけども、下の備考のところ、それぞれのバスの混合乗車の検討等で、その部分含めて、民間委託ということで運営ということはどうかという話は出たんですけども、だからといってそれを全部民間に合わせた時に、どのようなメリットがあってデメリットがあるかということまでは、議論ができていないんですけども、知内のほうで路線が足りない部分。

小谷石の方で、町が函バスへ委託をして路線を増やしているとかあってあるので、そういう関係で委託できれば効率化につながるのではないかなという話がでていました。話はそれくらいでした、以上です。

○ぎょうせい

それではすみません。次のグループをお願いします。

○4グループ

デマンドバスについては、実験段階で利用状況があまり芳しくないという意見が出ていて、その要因の一つとして、委員の皆さんから高齢者の方で利用の仕方が分からない、使い方が分からないという方が多くいるんじゃないかというようなところが出ていました。

あと、バス全般の話になってしまって、スクールバスについてなんですけれども、スクールバスの運転を今、用

務員さんがなさっているそうなんですけれども、それで用務員さんの本来の業務ができないというようところが問題になっているのと、あと、三岳2の子供がスクールバスに範囲の関係で乗れないそうなんですけれども、できれば冬の間だけでもというようところで、スクールバスの利用についてももう少し柔軟な運用の仕方ができるのではないかとというようなことが議題に上がっていました。以上です。

○ぎょうせい

何か、今のところについて、あとで思いついたとか、聞きたいというようところはありますか？

ここはよく、実際に交通について調査をしたわけではありませんけれども、全体のアンケートの結果とか色んなのを見てきた中で、何かあまり強いことは言えないんですが、やはり気になるのは、これだけ高齢化が進んできた時に、高齢者の方、例えば独居の方がいらっしゃるのか、あるいは高齢の世帯2人で住んでいらっしゃるのか、皆が車の運転ができればいいけれども、できないとすると何らかの形で。

何が言いたいかというと、その方達が外に出て町の中に出てくるという環境を作らせないで、どんどん孤立化しちゃうという心配があったものですからね。それから、今度は子供たちがもう少し町の中へ移動しようとした時に、はたして自転車で移動しているのか、あるいはお父さんお母さんがついて移動しているのかという

こともあったものですから、そういう環境というのはどうなのかなと思って実は、色んなことを皆さん方にふってきました。でも、今特に問題がないとすればそれはいい。

先ほど総務の人に、函館に皆さんどれくらい出ますかと聞いたら、だいたい週末には出かけていると。じゃあ車のない高校生なんかはどうしているみたいと言ったら、それは家族と一緒にいるということであるから、あえて余計なことをしてせっかく家族団らんで週末に函館まで行っているのにそれをばらばらにする必要はない、考え方によってはね。そういうこともありますから、ただし、重要なことはやっぱり色んなところに交通弱者といわれる人達は存在しているということだけ覚えておいてほしいと思います。特に、高齢者の人達はね。家から出なくなると、今一番恐ろしい認知症。前回は話をしましたけれども、認知症にかかりやすくなってから、なるべく表に出させる、これはバスとかなんとかだけじゃなくて、色んな町の政策、住民の政策として外に出て交流をしてもらうという環境さえできればいいところっております。

それでは、次にインターネットのところに入ります。お願いします。

○1グループ

インターネットの環境の整備の部分についてなんですけれども、どこまで町が整備をする必要があるのかという部分の話で、確かに光ファイバーとか、これからは重要だというのは全

員認識してはいたんですけれども、町の方で整備をするにはお金がかかるというのも事実なので、先進でなくてはいいいけれども、他の町村が整備をしている状態を、最低限町の方で整備をするような状況にもっていった方がいいのではないかというような意見がでていました。それについても、それを活用するためにもニーズというか、コンテンツが必要となってくるので、やっぱりうちのグループではテレビですね、各家庭必ずテレビを持っているので、そのテレビを使ってうまくコンテンツというか、そういうサービスが利用できるシステムがあれば、多分もうちょっと多くの人がパソコンを使ったインターネット以外でも、インターネット、ITを利用する状況になるのではないかという話も出ていました。

あと、ITに触れる機会づくり。やっぱりどうしても、実際使い始めるまでが大変だということもあるので、体験会を一か所で開くのではなくて、少人数でもいいので実際使い方が分かる人が、ボランティアでその説明をして、パソコンはこういうふうに使うとか、今では携帯電話でもメールとか、インターネットが見れますので、携帯電話はこう使うんですよとか、携帯電話を使ってネットはこういうふうに見るんですよ、というふうな交流会と言ったらちょっと言葉があれかもしれませんが、そういうふうな入口づくりを形式ばった勉強会とかではなくて、少人数の体験会をもった方

がいいのではないかというような話がでていました。1グループは以上です。

○ぎょうせい

はい。ありがとうございました。

次のグループをお願いします。

○2グループ

うちのグループでは、基本的に光ケーブルにしろ、違う方法にしろ、便利になることはいいという格好で、話は進めていたんですけれども、ただ、便利になるのはそうなんですけれども、使う方がそれを使えるような格好を進めていかないといけないということで、基本は全ての町民が使えるような格好にしたいという、町としてもそういう理想もあると思うんですけれども、そういう部分で下のIT弱者といわれる人達にそういう取り組みという部分では、単純に最初からしこまった使い方という部分の勉強会も一つの手法ではあるんですけれども、それ以前に趣味として面白みをもってやらないとなかなかいかないという部分で、使うような普及ですね。生涯学習講座というふうな一つの方法でも、インターネットを使ってオンラインで囲碁なり将棋なりそれが、違うカードゲームなりにしろそういう部分での取り組みで少しずつ増やしていくような方法も一つの手法としてあるのではないですかということで、ここはニーズの掘り起こしの部分の話でアドバイスをいただきました。

意見としては、前回の取り組みのほうにプラスという格好になると思

ます。以上です。

○ぎょうせい

はい、ありがとうございます。それでは3グループお願いします。

○3グループ

私達のほうで、ネットの関係なんですけれども、まず、そもそもの話で光をひくというところのメリットってどこにあるんだろうという話から入ったんですけれども、若い人達のための生活の基盤ということで、つくるのは必要なんだけど、これが全町民に普及するのかというところであれば、それはちょっときついのかなというのがあったので、先ほど1グループの方でも出ていました、高齢者の住宅や普通の家でも、結構立派なテレビがあって、ネットにつなぐことができるテレビになっているというのがあるので、それを何とか利用できないかということで、そのテレビのインターネットを通して、簡単に役場自治体とかからも様々な情報の配信というようなことで、そういうのがシステムとかでできないかという話が出ていたのと、その関係で、IT企業誘致と書いてあるんですけれども、ITの企業をまず誘致するには光が必要なんだろうと思うんですけれども、そのIT企業の誘致のために、ただ大きく募集をするのではなくて、まず町出身の、この町にゆかりのある人でそういうふうなことを今やっている人とか、これからやろうとしている人を探して、その方に誘致ということで、土地と建物を無償で提供して、ただ、企業誘致す

るだけであれば仕事がないということもあるかもしれないので、高校の存続の関係にもつながってくるかなと思ったんですけれども、商業高校、今でもパソコンなどIT関係やっているの、さらにその部分、IT科を作るとか、作らないにしても、それに特科したような授業をつくって、そこにIT企業で誘致した方に講師として参加をしてもらおうと、そういうふうなところで、企業誘致ということを大きくやるのであれば、やっぱり光ファイバーが必要だよねというようなことで、重要性というところも結びつくのかなと思いました。

備考に書かれている、勉強会も必要だけれども、教室を開催しても参加する人がやっぱりあまりいないのではないかというところで、こっちから教室を開いて、来てくださいというんじゃなくて、一番手頃なところで広報でインターネットに関するコラムみたいなものを毎月半ページとかそれくらいの規模で掲載して、インターネットをつなぐとこういうことができるとか、光回線だとこういうふうなことがあるよというようなことを、こっちから情報を提供して、何とか身近に感じてもらうと。あと、光を引いた場合のいいところの中に、老人の孤独死を防ぐための見守りというようなシステムもネット環境を整備した上で、各住宅に、先ほど話に出ていた介護の住宅の関係で私も見たことがあったんですけれども、孤独死を防ぐためにその方が生活をしているのかどうかと

いうのを感知というか、見守るシステムについてというのがあったので、そういうものも高齢者の住宅などにシステムを開発をしてつけるというようなことができれば、それもまた光をひくというような意味では、ネット環境整備をするいいメリットというんですかね、目的になるのかなということも話をしていました。私達の方は以上です。

○ぎょうせい

はい、ありがとうございました。じゃあすいません、4グループお願いします。

○4グループ

4グループでは、まず最初に以前パソコン教室が実際に行われていたそうなんですけれども、それが、途中で終わってしまったという話が出ていて、そのあとインターネットを使った、他団体の例なんですけれども、インターネットを使った見守りサービスが実際に行われていまして、水道メーターであったりだとか、もしくは個別端末を使った、それこそ先ほどの班でもありましたが、孤独死であったりとかいうものを防止するようなサービスが他の団体で行われていまして、それについて、ちょっと言及があって、高齢者の方でそんなもの使わなくても困らないというような認識をもってらっしゃる方がいるかもしれないので、誰にでも簡単に利用できるような形式、タッチパネルであるとか、ボタン一つで何かできるようになるというような、操作が簡単であるというよ

うなところをちゃんと心がけなければいけないという話になりました。以上です。

○ぎょうせい

ありがとうございました。ここは、僕も非常にITは弱い人なので、ある意味ではIT弱者だから、細かいアドバイスをすることはできないんですが、ここでは一つ若い人達にとっては、これからはインターネット、非常に重要なことですから、やはり全町どこに居ても使えるような環境は整備をしてほしいと。将来的にはですよ。と思うんですね。ただ、ある意味じゃ高齢者という人達については、今おっしゃったように、パソコンが本当に必要かと言うと、全くそうではないはずなんです。それは何かと言うと、最近スマートフォンで老人の見守りとかね。今日彼は、起きているか起きていないかというのを全部それでやろうということで、各地でスマートフォンを使うと。だから、例えばスマートフォンの電波が届かないということになると問題はありますけれども、そうじゃなければ、おおよそのことはカバーできるような時代にはなってきていると思います。ただ、若い人達にとってはやっぱり、ITは非常に重要だから、それは将来的な課題で残してほしい。それから、一つだけ言っておくと、IT企業誘致3というのが今消えたようだからよかったんですが、IT企業の誘致というのはほとんどやっても意味がないよね。これは国策としてやって国が失敗した事例だよ。北海道

にIT企業を、ソフト開発の会社を誘致しようとして団地まで作ったんだけど、一時は皆来たんだよ、そういう人達が。でも、結果としてそれは駄目で帰っちゃったんだよ、皆また東京に。あまりのんびりしすぎたところでそれをやっている、あまりいいアイデアが湧かないといって。

ところがまた、例えば今流行っているのは、中国地方の山間地に行っているところがあるんですよ。だから、これはもうたぶん町をあげてやるという仕事ではないんだよね、ここの部分の企業誘致というは。ただ、そういうことをできる人がここに居てくれるということは、先ほど言ったように重要だから、そういうことについては何か手法を考えるべきだろうと。企業誘致というのは色んなところが出てくるけれども、日本全国誘致に夢中になっているから、よっぽどのことがない限りはなかなか企業誘致って簡単に言ってもね。ここに住んでいて何か事業をやっている、ここにこういうものがあるから、またここで何かやりたいというのがあればいいんですけども、企業誘致というところにあまりこだわるとね。なかなか若い人達の職場を作るというものはたしてできるかどうかというのは、若干僕は疑問があります。ただ、これは皆さん方の計画だから、そこについてはあまり深くこれも触れないようにします。

それじゃあ次に、情報バンクの設置。これは、すいません。委員の方々に申し上げたいと思うんですけども、前

回のフォーラムの人達にはここはあまり深く検討しなくてもいいよと、それは何かと言うと、これまでに情報バンクの話は色々出てきているので、それとの合体の中だと申し上げているので、一応何か新しいものがあれば、発表してもらおうと。ということで、お願いしたいと思います。では、1グループからお願いします。

○1グループ

1グループなんですけれども、今先生から話があったとおり、そういうふうな状況であったものですから、この部分の話は、1グループはとばさしてもらいました。すみません、以上です。

○ぎょうせい

はい、次お願いします。

○2グループ

うちのグループについてもここはあまり検討はしていません。備考の方で、前回3、4グループは仕組み作りの部分の話になるんですけども、具体的にどうこうというのはちょっと思いつかず、この場での検討はできなかったです。以上です。

○3グループ

私達のほうは、以前2グループで話した内容とほぼ同じことになるんですけども、情報を一元管理して、求人ですとか空き家、その他に町のイベント情報なども管理して、さらに一つの町だと足りないの、それを4町の範囲でカバーしたものをメルマガや各戸配布という形で情報は提供していくんですけども、その情報を管理したり発信していくところは、やはり

自治体としての仕事になるのか、それが民間の違う団体を入れてということになるのかは別として、専属の人を設けて管理、配信するというような格好でやるのが一番いいのではないかなという話になりました。以上です。

○ぎょうせい

はい、ありがとうございました。すいません、お願いします。

○4グループ

4グループでは、情報をどういうふうに皆に広げるかというところで、空き家とか求人というような特定の情報ではなくて、もっと一般化した情報というお話で進んでいたんですけども、松前では個別端末を使った連絡網のようなものがあると。例えば何月何日にどこどこで着物教室があります、というようなものを町民の方が発信をもつことができます。

そういったようなところで、個別端末を使った連絡網というようなものができれば、例えば先ほどの孤独死だったりとかもそうですし、あとは防災とか防犯とか、町内会のちょっとした皆の情報の共有なんかにもつながるんじゃないかなといったところでした、後は情報についてなんですけれども、全町民に発信をしなくても例えば町内会ごとであるとか、そういったところで、代表になるような方に情報を発信するようなシステムがあってもいいのかなと。あと、これに関連して各家庭に防災無線を設置すると、先ほど述べたような松前の個別端末じゃないですけども、もっとアナログな

ものですけども、防災無線があれば、例えば町内会のお話とかも皆で情報を共有できるのではないかなと。

ここで気になったのがインターネットだと特定の人しか使わないのではないか、というような意見が出ていて、その中でアナログではありますけれども、防災無線の方が高齢の方にも受け入れられるのではないかというような意見が出ていました。4グループは以上です。

○ぎょうせい

ありがとうございました。それでは、すいません、ここはそういうことで次にいきます。4ページ、住環境の整備の中で町の環境美化のところをお願いします。

○1グループ

1グループです。実際に美化活動をしているグループの人達、何グループあってどのような活動をしていますか、というような話からまずなりまして、実際自分達も何グループか知らない。実際は4グループ5グループ自分達が知らなかったグループも活動していたというような実態もありますし、ひまわり会のライオンズクラブで表彰を受けたというような、実際に自分達が分からなかったそのような事例も認識できましたので、その活動評価というか、実際にそういう団体がどれくらい活動をしているか、もう一回再認識をする必要があるのではないかなという話がありました。

あと、国道沿いの景観に対してということで、三岳のほうに桜並木があり

まして、他のところの桜並木に比べれば、本数は少ないですけれども、結構大規模な、車で通ると目につく桜並木がありまして、その桜をきちんと整備をすれば、本数を増やして桜の管理をしていけば、観光客が目止めたくなくなるような桜並木にできるのではないかなというふうなもの、検討したほうがいいのではないかなというふうな意見もありました。あと、以前日向地区の方でナナカマドを国道沿いに植えていたというふうな時期もあって、ただそれが枯れてしまうと、木を切ってしまうとそれ以降また新たに植えることをしなかったと。そういうふうな管理も打ち切りになっている部分もあったので、町内会とかにお願いをして、継続して管理をできる体制を整えたほうがいいのではないかなという話がありました。1グループは以上です。

○ぎょうせい

はい、ありがとうございました。

○2グループ

3、4グループの話の部分で、前回話をしているマイナスとと思っている部分の話については悪いところをそういうふうに表面に出すのはあまり良くないというところで、備考の部分でいっても、それは削ってくださいという話になりました。いい部分を計画にしていこうとしていますので、ここは削りました。

上の方の備考を含め、一つの意見として国道の桜街道等という部分なんですけれども、一つの桜は松前でやっているから、福島は梅でもいいのでは

ないですかということ、梅公園という格好で、それが国道になるにしろ違う場所になるにしろ、目玉になるような方向でそれが梅については、ただ見るだけではなくて、違う分野でも使えるので、それを雇用という格好へ結びつけていく手法もあるのではないですかということ、面白い視点の部分でそういう進め方もありということで、具体的な部分でそういう方向も検討に入れて進めたほうがいいのではないですかということ、まとめさせていただきました。以上です。

○ぎょうせい

ありがとうございました。

○3グループ

私たちのグループでは、ゴミの削減、街灯のLED化等この部分はまず必要だねという話になりまして、次の高規格道路の部分なんですけれども、町の環境美化の安心安全というよりは、隣の医療の関係の安心、安全につながってくるのかなという話になりましたので、項目を移動ということですね。この中では、削除ということです。

あと、環境美化で他に追加で出た案なんですけれども、国道縁のところの雑草というか、草が結構背が高く伸びている部分があるんですが、その部分はどうしても道路の管理が国であったり、道であったりという部分があるから、なかなか手をつけられないという部分はあるかもしれないんですけれども、草刈りだけであれば、町内のボランティアとかで何とかできる

のではないかということだったので、あと伸びすぎれば安全面の部分が引っ掛かってくるのではないかと思いますので、その部分も活動をしたほうがいいのかと。

あと、新しい項目なんですけれども、空き家ですね。さっきの若者定住の方で空き家はでてきていたんですけれども、こっちの方の環境の部分でも空き家は引っ掛かってくるのかなと思いますので、その部分はどうしても勝手に解体とかってわけにもいかないし、用途がいろいろあるとか、費用もかかるとかあるので、その人達にすぐやってということは厳しいかと思うんですけれども、その部分、空き家を解体するのであれば、全額ではなくても、いくらかでも補助をだして、空き家で本当に使っていない部分というのは、環境の美化の面でもありませんし、雪害などの安全面でも大切だと思いますので、補助なり助成をしてその部分の空き家もきれいにしてもらったりということも必要なのではないかということで、意見も出ていました。私達の方は、以上です。

○ぎょうせい

はい、ありがとうございました。では、4グループをお願いします。

○4グループ

4グループでは、国道に何か景観の良いものをとということで、福島町と言えば山ゆりということで、山ゆりを育てられないかという意見が出たんですけれども、国道沿いで育てるにはちょっと難しい植物だということで諦

めることにして、さらに言うと国道というのは開発用地だからあまり大きな事はできないと。なので、一本入ったところで何か目玉になるようなことができるのではないかなと。その中で目玉になるようなところなので、あちらこちらに何か置くよりも1箇所に集中して、例えばこの通りだけというようなところで、例えば特定の植物を植えたりだとか、目玉になるような場所を作ろうという話をしていました。

先ほどの、山ゆりにちょっとこだわってみると話は脱線するんですけれども、森林公園の歩道の整備をすることで、町の景観を楽しんでいただくというようなところにはつながっていくのではないかなというような話が出ていました。4グループは以上です。
○ぎょうせい

ありがとうございました。ここについても、よかったねと思ったのはマイナスと思っているなら、あえてマイナスの状況を売り込む。言っていることは良かったんですけれども、マイナスとマイナスを足してプラスには絶対ならないというが、私の持論なものですから、消していただいてほっとしているんですが、ただ、古き良き風景を残すということで、例えば、町並み保存というのが全国的にやっていて、ただあれは伝統的重要建造物って町に建物とか、あるいはそういうものがあったり初めてわかったり、天然記念物の樹木か何かあるということがあから、一般的にここで言っているのがど

ういうふうなイメージになるのか、私もできていなかったのとまあええ消えたのでよかったかなと。ただ、今やまゆりの話をいうと、そのある場所、地点地点で景観を作っていく、これはすごく面白い、いいのではないかと思うんですね。僕が何度か町を見ている中で非常にいい景色になっているんじゃないのと思ったのは、黒米を作っているところですよ。あの国道沿い、反対側はブルーベリーかなんかをやっていたと。その時もう片一方でトマトもやっているんじゃないかという話もあったんですが、もしそういうものがあの地域で一体的になっていると、それを使って苗が埋まっていないとき、あるいはキビが育っていないとき、ブルーベリーの実がなっていない時にどうするかと考えれば、そこはそういう地域よということ、景観を作っていけばいいだろうし、あるいは、民家のある所だったら自分の前の国道をどう整備するかというのが、この間も話があったように花壇を整備というのは、道の駅の周辺とかやってくれているグループのような活動を広げればいいというふうな話に今まとまったようですから、かなりほっとしました。

つぎ、専門医療機関への通院等の支援。これについて、お願いします。

○1グループ

1グループですけれども、まず備考の医療タクシー等の交通費を町が負担するという項目があったと思うんですけれども、ここで安易に無料化、

ただでやるというのはどうなのかというふうな話が出ていました。

あと、下の方に病院と連携強化ということで、松前町の町立病院、木古内町の国保病院とか、周辺4町と提携を結ぶのであれば、実際今は道南にドクターヘリがないものですから、そういうドクターヘリの検討はしているのかというようなことを委員さんのほうから確認されまして、自分もそこまで、ドクターヘリについては話は出ていませんでしたということで、それも必要ではないかということで、話が出ていました。1グループは以上です。

○ぎょうせい

はい、次お願いします。

○2グループ

すみません、うちのグループはここを話をする時間がなくて、先の方へ進んでしまいました。

○ぎょうせい

はい、次お願いします。

○3グループ

私達のほうで、さっきの1グループでも話がありましたけれども、夜間の場合、医療タクシーですね。全部無料にするのはちょっといかなものかという話がでていたので、その部分は一律いくらというような格好で、個人にも負担金をもらいつつ、ここに追加したいのが、特に産婦人科の関係とか、あと介護が必要になった場合というのは、ただ行き来だけではなくて、そこでその病院の付き添いの方が宿泊も伴うということもあるかと考えられますので、その部分交通費以外

にも付き添いの人の宿泊料の助成と
いうことができないかと。

そういうふうにすると、行き来だけ
ではなくて、看病の部分も含めて、総
合的にカバーできるのではないかと。
どうしても産婦人科、小児科というの
をこの町に呼んで作るというのが
やっぱり厳しいのではないかという
話が、やはり委員さんの方から出てい
ましたので、じゃなければそれに変わ
る部分で、その部分の宿泊も含めて
とやればいいと思います。

それで、その下の医療バスの運営と
いうのは、ここの医療バスの方はイメ
ージ的には、うちの方で話をしたのは、
町内の病院に行く人を温泉バスとか、
そんな感じのやつで目的地がバスで
はなくて病院だということで、その医
療バスの運営ということ、話をして
いました。その、隣のクーポン券など
というようなところは多分上の方に
どちらかという、かかってくるところ
だったんですけども、医療タクシー
をどうしても使うことがあるであ
ろう、妊婦さんなどの場合ですね、母
子手帳をもらう時に一緒にクーポン
券を渡して、万が一の時にこういう
ふうにすぐ出費がなくてもタクシーで
すとか、そういうのを使えるような格
好でということであれば、皆にもちゃ
んと行き渡るし、いいのではないかな
ということで、クーポンの制度もあれ
ばいいのではないかということで、話
をしました。あと、病院との連携強化
の部分は話をしていませんでしたの
で、割愛します。以上です。

○ぎょうせい

はい、いいですか。それではお願い
します。

○4グループ

4グループでは、そもそもここに書
いてあるような、例えば産婦人科であ
ったりだとか、小児科というようなど
ころの通院について考えていて、妊婦
さんは前もって入院をしますし、例え
ば最近、高規格道路が茂辺地まで来て
いますけれども、それが木古内になり
ました。という話があったとしても、
今は車の中で出産をしましたという
事例って聞かないそうなんですよ、以
前はよくあったそうなんですけれど
も。というのは、もう9か月になりま
したといったら、函館の親戚の所に泊
まったりだとか、もしくはもう入院を
してしまったりだとかというところ
で、本当に急な場合、例えば心筋梗塞
でご老人が倒れましたと言った時に、
不謹慎な話ですけども千軒までも
たないというようなこともあったそ
うなので、そういった場合の対策とし
て、ヘリコプターを飛ばすというよう
なことが出ていました。ドクターヘリ
は確かに予算等もかかると思います
し、実現性は低いかもしれませんが、
これはひとつ検討をするべきかなと
思いました。

あとは、単純に町内に病院がないと
いうのは、凄い心配なことで、町外か
らいらしている地域おこし協力隊の
方がこれをおっしゃっていたんです
けれども、やっぱり町内に病院がない
ということは住む上で心配だそうで、

特に大変なのは捻挫とか骨折をした場合に、整骨院がなくなってしまっていてその対応なんかも大変なので、入院とか、そういう大きい規模ではなくて、単純に診療所があるだけでも一つ違うのかなと。通院の支援ということなんですけれども、そういった診療所のような窓口になるようなところが一か所あってもいいのかなというような話が出ていました。以上です。

○ぎょうせい

はい、ありがとうございました。

今、皆さんの言っていることはすごく重要なんだけど、もう一つ考えてほしかったのが実はあるんですよ。医療タクシーを使ってクーポン券をだす、僕が言いたいのはお金の話じゃないんだよね。もし万が一子育て中の、例えば0歳児1歳児の赤ん坊が夜中に大熱を出しちゃったと。どこか病院へ行きたいと。しかし、松前も夜はやっていないと。木古内もやっていない、小児科医があそこはほとんど夜間はいませんから。というときに、医療タクシーを呼ぶというときに、医療タクシーは誰に頼みますかと。町のタクシー会社、そこと連携をします。例えばタクシー会社が何社ありますか？前に消防署との連携と、僕が言ったのはタクシー会社に電話したときに、タクシー会社は毎日その仕事があるわけじゃありませんから。当番的にあなたは何時から何時までということで、タクシー会社がやってくれればいいけれども、やってくれなかったときに、ではやるにはまた負担をしなければ

ならない。そういうことでは、ないんじゃないですかと。医療タクシーを出すんだけど、その時に一時的にはやはり基本的には救急、消防、救急車、ただしこれは出ていたりなんかするとできない。そのときに、救急と連携をしながらどこかの誰かが、タクシー会社でもいいです、あるいはそういうボランティアをやってくれる人でもいい、というところをネットワークしておいて、誰かが119番をかけてきたときに、そこからの連絡で何箇所かそういうものを置いておいて、その方が緊急で病院まで運んでくれる。ただしこれもまた泊まりが必要だということがあります。当然そうなんですよね、帰ってこなければいけないんだから。そういうことを含めて、クーポン券も必要なんだけど、その仕組みを何か考えられませんかというのが、僕はここで実は重要なことだったんですよ。そのときに、じゃあお金はどうするのというのは、これは別の話で、接骨院とか診療所も確かに重要だけれども、ここであったのはこれだけ子どもが減ってきちゃったときに、皆が皆9か月になったら実家に帰ってお産します。こういうことが嫌だからこの町に居たくないとなった時に、どうするんですかと。そうすると、何か仕組み、システムを作っておいてこういうシステムが利用できるという時に、やっぱり公的なところを経由してそこから各個人のところに連絡をするなり、あるいはタクシー会社でもそういうところに連絡して、何箇所かパイ

ブをもっていて、そこへ頼めば安心だということがあれば、相当数の生活者、特に若いお母さん達の気持ちが休まるのではないのですか。

例えば、政策的に考える時はそういうことから入っていただいて、じゃあそのためのお金はどうするの？クーポン券なの？何なのというのはあるけれども、クーポン券を出したから、それで行けるから安心ということではないと思うんだよね。特にこの子供、心筋梗塞やなんかの場合もちろんありますよ。でも、これは一時的に救急車、ドクターヘリというのも将来的に重要でしょう。だけど、子供の時というのは、子育てをやった人達は皆思い出せば分かると思いますが、いつ何時子どもが大熱をだしたり、あるいは引き付けを起こしたり、ぜんそくを起こしたときに、皆悩んでなんとか手を打ちたい。だから、そばに病院がなければいけないと、こう思い始めるんですよ。

これを強く言うのは、私は常に子供に係わるボランティアをあちこちでやっているんですが、皆悩んでいるんですよお母さん達が。そうすると、そこは解決するのはやっぱり公的機関がどこかに入ってそこから何箇所かの協力者に連絡をして、必ずそこへ運んでいける仕組みを作っておかないと、不安じゃないかなと思ったんです。そういうことを言ってくれた女性がいて、なかなか子どもを産み育てることが大変だと言ってくれた女性がいたものですから。いいことを言ってく

れた、ぜひそれはこの町としてやってくれと、相当のインパクトがあるかなと。

ちょっとここは熱くなって申し訳ないんですけども、何かそういう緊急時、特に妊娠しているお母さん方はもちろんそうだし、ここに居ても家族と一緒にいながら実家に帰らなくても、いざとなればそういう手があるとかね。

前回申し上げましたけれども、何であんなに若い子たちが高校を出たら女の子達がこの町を出ていっちゃうんだろう、考えると不安で仕方ないということが一つあります。では、今度は地域の資源を活かした機能の分担ということで、福島地区の活性化というところに入っていきます。

はい、お願いします。

○1グループ

1グループなんですけれども、今現状の道の駅の状況の話が出ていまして、福島町にある道の駅なんですけれども、若干駐車場が狭いと。そういうことで、結構修学旅行とかそういう学生さんにトイレだけでも利用してほしいという話をしているけど、バスを停める場所がないので、駐車場の大きい所に行ってしまうという現状があるということで話があって、もし今仮にそういう新しいものを作るのであれば、大型バスが10台とか、一般の駐車場も100台程度停められる道の駅の方がニーズがあるのではないかという話が出ていました。

備考のほうに、商業、公共・公益、

交流ゾーンとしての優先順位というのがあったので、1グループとしてはまず交流ゾーン、しゃべる場所としゃべる相手が居るスペースですね。今ある既存の空きスペースをプレハブ程度の場所でもいいので、話相手と気軽に話ができる場所の整備を、まず1番最初に行ったほうがいいのではないかという話になりました。1グループは以上です。

○ぎょうせい

はい、ありがとうございました。

○2グループ

うちのグループについては、3、4グループのまるぼつ1つ目のショップ経営のPRを行うということで、これはそもそも何をしたいのかということの話から入って、これは町として起業する部分では、どのような格好でしていったらいいですかと、例えば起業するまでお金がかかるとか、起業したらこれだけ稼げるよ、あとはこうやって住んでいけますよという説明をさせていただきまして、その部分で、そういう話であるのであれば福島地区としては、町の商店街とかっていう部分になるのかは分からないんですけども、今だったら資本金がゼロでも会社を建てられる部分もありますので、言葉はちょっと悪いんですけども、試しにやってみて駄目ならすぐたんでもという部分もできるような施設的なものをやってみて、それがうまくいくようであれば、違う部分で起業してもらおうような格好で、ゆくゆくは商業施設の活性化という格

好で進めていく部分で、地区としては福島地区の方は位置づけ備考2のほうでこういうゾーンでいう位置づけがいいのかは分からないんですけども、起業がしやすい環境づくりみたいな恰好で、ゆくゆくは活性化につなげていけるような位置づけで進めていければいいのかなということで検討を行いました。以上です。

○3グループ

私達の方で、話をしたのはフリーマーケットの部分ですね、そこでの話がありました。せっかくどすこい朝市ということで、朝7時からなんですけれども、やっている市場というのがあります。そこは結構人が来ます。なので、今トンネル記念館の所でやっているんですけども、その部分ですね。ちょっと勝手な話なんですけれども、場所を商店街にずらして、そこにフリーマーケットも絡めたらどうかという話も出ていました。ここの部分なんですけれども、場所が今回お盆の盆踊りの時に、もともと商店があったところを更地にした部分で、そこで盆踊りということで人を集めたらやっぱりかなり人が来ていましたし、そこで人が来ると、やはりいつもであれば淋しい商店街の部分に人がたくさん集まってとてもにぎやかになったので、せっかく今朝市があるので、その部分と絡めて、朝は町内の方向けの朝市ということで、昼間はフリーマーケットと、町内の特産品を使った食べ物ですね。食事もそこで食べられるように、町内にいる私達もなかなか食べる機

会がなかったりしますので、その部分で朝はありますけれども、昼の方は町内から町外の方にも向けた感じで、北斗市も日曜朝市をやっていたので、そういうような感じでやれば情報の発信ですとか、人が集まる部分であれば、幅広い世代の方々が集まってもらえるのかなという話をしました。私達のほうはこれくらいしか話せませんでした。以上です。

○ぎょうせい

はい、ありがとうございました。それでは、すいませんお願いします。

○4グループ

一番最初にあがったのが、道の駅のやはり他のグループでもありましたけれども、駐車場ですね。大型バスが2台くらいしか停まれなくて、例えば修学旅行生なんか呼び込むためにはやはり、2台では少ないと。願わくば10台位は停まれるスペースがほしいということと、後もう一つ話題に上がっていたのが、トンネル記念館と横綱記念館が位置的に離れているというのがすごくネックになっています。福島地区の活性化という話だったんですけれども、もう一か所小さな規模でいいので、千軒にも道の駅をもう1個、やはり福島町の入口ですので、そこに人を呼び込むためにそういったものを設置できないかというようなことが出ていたことと、後はちょっと関係ない話に聞こえるかもしれませんが、テニスコートが新緑公園にあります。

このテニスコート今は使えなくな

っています。という話と、萩山、前はすごい活気ある場所だったんですけども、ここ10年で荒れ放題になっています。というようなところから、やっぱり福島で計画を立てて何かを始めたとしても、途中で中途半端に終わってしまうことがよくあるので、どこの地区をどういうふうに活性化をさせるにしても、きちんと計画を立てること。それから、途中でやめずに最後までしっかりと行うということが大切なのではないかなという結論にいたりました。4グループは以上です。

○ぎょうせい

はい、ありがとうございました。それでは、今皆さんが発表してくれましたが、僕が気になったことは、今2グループが言ってくれたショップ経営のところね、これは第1回の合同会議でも申し上げたと思うんですけども、例えばここで食のブランド化とか、色んな事が出ていますよ、観光化もしていこうとかね。そういうときに、例えば商工会の人達と連携をしながら、どうやったら若い人が二人そこで稼げるのか、そのときにどうやったらそのための投資できるのか、例えばの話、ふるさと応援寄付金って今1000何百万か集まっているじゃないですか、ああいうものをきちんと寄付をしてくれた人達を町の人達がきちんと理解ができれば、例えばそういうものを起業したいという時にその町がスペース、プレハブでも何でも用意をした時に、高校生が一息懸命ライスバーガーを作ってやっている、それならじ

やあ高校を卒業したらそのお店を、例えばカフェがほしいとか色んなことを言っているんだからやってみなさいと。その時のお金は、例えばふるさと応援基金を300万使えば出来るかもしれない。そのためには大人がこの計画の立て方だとか、どういうふうにすればコストが上がるかとか、自分の人件費が稼げるのかとか、そういうこともせっかく商業高校があるんだから、そことタイアップしながら何かをやっていくと、ここに若い人達がほしいフードコートとはいいませんけれども、それに近い交流の場を含めて何かできるのではないですかと、そのためには横綱商店街も空き商店があったりするから、そういうものを活用できませんかと、あるいは福祉センターの前の駐車場、トンネル記念館の前の駐車場、朝市だとか色んな事がありますけれども、昼間だってやれることがありますませんか？そこで自分達がアルバイト先だと思っておこずかいを稼げる何かありませんか？とそういうことを何か考える。

そのためには、やっぱりこの福島町の何かがきちんと皆が理解できて、ここはこうやって育てようという一つの計画があれば、色んなアイデアが湧いてくるんじゃないですかということが、例えばショップ経営のPRを行うというのがあるんですけども、若い人達に何か自分で稼げる方法、水産加工物何でもいいですけども、そうではなくて、ほしいものは自分たちでそこでやってお金も稼げるという

ことを考える場所は何か提案をできませんかということなんですよね。

そういうことも含めて少し、私は今回ここに書いてあることで整理をしようと思っていますけれども、そういうことをうまく整理をしていく。じゃあ、その時に高校生がここにいた時に、実は学校からここまで遠い、色んな事がある、じゃあその時にこの周辺にもし空き家があれば、下は店舗上は自分の住みかとか、色んな事が考えられますか？そういうふうに考えていくと、何かやりようというのがもう少し、いきなり大きな事ではなくてね、一人か二人が何かそこで食べられる、ビジネスになるということを積み重ねていけば、それが一つのつながりになって大きなものができるんじゃないか。道の駅を考えると、いきなり大きな道の駅ではなくて、今ある道の駅のところが駄目ならどっかやったときに、どういう道の駅なら、規模が大きければいいのか、そうではなくて、こういう規模でもここなら客が寄ってくれると考えるのかと。そういう発想をできればしてほしいという気はしました。はい、それでは吉岡地区に行きます。

○1グループ

一点目ですね、吉岡小学校周辺を拠点として整備を進めるというところですね。一時期吉岡小学校の隣に吉岡改善センターというのがあるんですけども、そこを新築して高齢者の交流施設を作るというような話が出たそうです。でも、実際途中にな

っているそうなので、吉岡小学校周辺を整備するのであれば、改善センターも含めて、交流施設とか生涯学習の支援施設を整備したほうがいいのではないかというような意見が出ました。1グループは以上です。

○ぎょうせい

はい、ありがとうございました。

○2グループ

うちのグループについては、3、4グループの温泉を有効活用という部分で、備考の部分については、そこまで見当はできなかつたんですけども、出されている意見について肉付けをさせてもらいました。温泉を宿泊施設にという部分もあるんですけども、宿泊の部分になると、いろいろ手続きが複雑なようなので、一つの方法として、参考までにいただいたアドバイスとしては、宿泊施設じゃなくて仮眠施設でもよいのでは？とそういう方法も、一つのつながりとして温泉施設でそういうふうやっていこうという格好にするのであれば、そういう方法もあるのではないですかということで、アドバイスもいただきました。

そこについて、食事をできる施設ということで、後半についている部分ではあるんですけども、それもあるけど、福島町で住んでいて実際に美味しいと思えるものがあるんだから、それはそれで、提供できるような格好にしたほうが、あそこの温泉で出たものは美味しいからまた行こうということにもなるのではないですかということで、そういう方向も検討をさせてい

ただきました。うちは以上です。

○ぎょうせい

はい、ありがとうございました。

○3グループ

私達のグループなんですけれども、まず私達の方で、吉岡地区の温泉ということで、温泉の活用の部分なんですけれども、さっきの1グループで出ていた意見に似ているんですけども、私達は温泉施設自体を単純に直してしまつた方がいいのではないかと。

というのは、やはり福島町には今温泉付きで泊まれるという場所はないですし、松前は隣接ではないですけども民間で旅館がありますし、木古内にもある、福島にはないということで、もし福島にあれば花見時期の松前のお客さんとかも、こちらの方に取りこめるかも知れないですし、今まで海水浴の夏の時期に結局泊まる場所がないですし、そのまま泳いですぐ帰ってしまうということもありますので、この部分、せっかく温泉があるんですから、その部分も宿泊をしてお客さんをどうにか取り込めないかということで、その運営の部分の話になると、その部分を自治体の方でやるのか、こっちの方で全部準備をして民間に委託という形になるのか、というのがそこまで話はできなかつたんですけども、そういった何らかの形で運営して、さらにそこで先ほどの話でも出ていたんですけども、飲食ができる施設、うちの特産品をそこで出して、泊まりに来るということは、町外の方なので、その方々に町内の特産品を発

信できるいい場所にもなるということで、せっかく吉岡地区の部分ですので、魚介ですとか、町内なので、千軒三岳地区の農産物の方も提供できるかなという話もしておりました。温泉施設改築ということで、規模も大きくなるかなと思ったんですけども、私達の方ではそこを話をしました。以上です。

○ぎょうせい

はい、ありがとうございました。それでは、4グループお願いします。

○4グループ

4グループでは、吉岡地区というか、吉岡温泉についてお話をしました。具体的なところで言うと、入口のゆとらぎ館という看板なんですけれども、今とても小さくて見づらいということで、もう少し大きなものに変えることでもっとお客さんと呼ぼうと。あとは、もっと根本的にゆとらぎ館という名前ですね。これを例えば一般公募したりだとか、あとはイメージキャラクターのようなものを作って、もっとキャッチーにしようというような意見も出ていました。その他に、トンネル記念館の絵を中に書くことで、町のスポットを相互でPRするような形をとってもいいのかなというような意見と、最後にこれはすごく大切だなと思ったんですけども、今ゆとらぎ館は朝10時30分からやっているそうなんですけれども、朝風呂を推奨するためには朝5時～6時くらいの仕事に行く前の方々があたりだとか、ご老人とかを対象に、そういった朝風

呂を推奨するようなサービスがあってもいいのかなという意見が出ていました。4グループは以上です。

○ぎょうせい

はい、ありがとうございました。今、最後が温泉の個別的な改善方法、これも非常に重要な提案ですからいいというふうに思います。

たぶん、この福島地区とか吉岡地区とってこれを整備していくというのは、そんな急に出来るわけではないですから、中長期の話だろうと思いますけれども、何か常にこういうことを念頭におきながら考えていただくとありがたいかなと。せっかくそういう温泉施設、いいのがあるから。

それから、今はたまたま使えないけど学校。あのままでは耐震構造上無理だとはいうんですけども、ああいう空き地がある。

ということを考えれば、それから、漁港も比較的近いとか色んなことが考えられるのかなと思います。

ありがとうございました。時間がだいぶオーバーしてしまいましたけれども、前回より委員の皆様のアドバイスがあったおかげでだいぶ整理されましたし、ポイントが見えて来たかなという気がします。

今日、皆さんから発表していただいたものを私の方でもう一回とりまとめて担当課の方と調整をして、また皆さんのご意見をいただくことになるのかな、この辺のことにしたいと思います。

今日私の方は、これで終わらせてい

いただきます。大変時間をオーバーして申し訳なかったんですが、貴重な時間をありがとうございました。特に、委員の皆様にはかなり具体的なアドバイスをいただきました、ありがとうございました。

○事務局

先生ありがとうございます。皆さんにおかれましても、すみません、長時間ご協力をいただきありがとうございます。最後にその他ということで、今度の予定を若干2～3分説明させていただきます。今ご説明したとおり、今日でとりあえず皆さんの前回提言していただいた、5つの柱の部分が一通り整理をつく格好になります。

今日出された意見について、ぎょうせいの方と役場のほうで、皆さんの意見の出た部分をまとめ上げて、計画素案という格好で、本来の予定であれば10月末に最後の今日のような合同会議を開いて、了承をもらえたらぎょうせいのほうで、計画素案を計画に作りあげていくというスケジュールになっています。その作業を、役場とぎょうせいの方でやるのを10月中に終わらせて、下旬に最後の会議を開こうと考えているんですけれども、若干それであせって計画素案を作るとりあえず皆さんの方に提供をした段階で悪いものだったら困るので、皆さんに提供できるまでの間の作業時間をもらいたいということで、自分のほうからお願いをさせていただきます。それが、若干遅くなって11月の上旬に会議の日程がずれ込むかもしれない

んですけれども、その際はまた今日のように、ご協力をいただければと思います。

半年間になったんですけれども、最後のもう1回までご協力をしてもらえればと思います。自分の方からは、以上です。何か他にあれば、伺います。

○観光協会会長

すみません、時間も9時近くになってお腹がすいた方もいらっしゃるでしょうけれども2～3分で終わりますので。

観光協会の会長をやっておりまして、まちづくりもやっておりますので、今日は非常に参考になりまして、真剣に聞いておりました。

それから、4町の連携うんぬんという話もありましたけれども、昨年から4町の観光協会の会長を初め、事務局、合わせて年に2回ほど打ち合わせいたしまして、お互いに知内から松前の強いところと弱いところが町によってあります。

福島は、先ほど出ていましたけれども、宿泊施設がないだとか、その変わり見るところはたくさんあります。そういったものをプラスマイナス合わせまして、4町でなんとか協力をして、こちらの方にお客さんを呼びたいということで、今検討をしています。

それから、横綱ビーチの問題もでていましたけれども、あそこは夜泊まれないので、キャンピングカーで来た時に、福島に何とか泊めることができないかということで、その整備もすでに考えております。

それから、新しく道の駅のことも今検討に入っておりますので、現在の横綱会館のところの道の駅では狭いので、トンネル記念館のところも狭いんです。だから、両方の施設と全く別なところで今検討をしております。それも、いつになるか期限はまだ分かりませんが、そういうものを全部参考にしながら、また来年再来年と進んでまいりますので、出たものから皆さん方にお知らせしたいと思います。一つまたいいアイデアがありましたら、協力のほどをお願いしたいと思います。

失礼しました。遅くなってまたしゃべるとするのは、帰りたい方もいらっしゃると思いますけれども。失礼いたしました。

では、よろしく願いいたします。

○事務局

ありがとうございます。今、会長の方からもあったとおり、明るい話題も色々このように情報提供もありますので、皆さんのいただいた意見も今のような格好で、参考にしてくれということで言っていたので、決して無駄なことではないので、これからもこのような部分を続けていきたいと思っております。

それでは、長くなりましたけれども、本日の会議はこれで終了させていただきます。

○総務課長

どうもありがとうございました。助かりました。また、次回も皆さんよろしくをお願いしたいと思います。

今日は、本当にありがとうございました。

○事務局

以上で、終了させていただきます。